

# ストリートファッションにおけるヘアスタイルの変遷 — 1980年～2009年の30年間の調査・分析 —

穂川茉莉子・渡辺明日香

## Transition of hairstyle in trend on the streets — Investigation and analysis at 30 years from 1980 through 2009 —

*Mariko HOGAWA and Asuka WATANABE*

The purpose of this study is to examine the hairstyle and the change of the fashion item in the street-fashion. The investigation period is 30 years until from 1980 to 2009. We observed the street fashion in Tokyo and, based on the photograph, added it up. As a result, the length of the hair, the long hair became more than 40.0%. The short hair was 20%. We examined the fashion item, the skirt held 56.9% and more than half by 1980's, but the ratios of underpants gradually increase. In addition, in the fashion taste, we examined the ratio of the casual fashion or elegance fashion, and understood that the casual fashions increased. We examined the difference in a hairstyle and the season of the item. As a result, there are many ratios with the medium hair and shot hair, and pants in the spring and summer. In fall and winter, the ratio of the long hair and skirts were high.

### I. はじめに

「ファッションは時代を映す鏡」といわれる。ファッションと同様に、ヘアスタイルやメイクについても、当時の社会背景や経済状況、世代の価値意識などが反映されていると考えられる。

わが国のファッションの歴史を振り返ってみると、第二次世界大戦後、西洋文化から多くを吸収し、その豊かな生活を積極的に模倣することに躍起であった。従って、ライフスタイル、ファッションなど西洋の文化は全て憧れの対象であり、ファッション同様、メイクやヘアスタイルも西洋を視座しつつ、多くの流行が生まれた。

日本におけるヘアメイクに関する考察として、明治時代から平成までの女性のヘアメイクの変遷を考察した山本桂子の「お化粧しないは不良

のはじまり」によれば、元々着物を着ていた日本人は、メイクもヘアスタイルも着物に合うものが主流で、女性の多くは長い黒髪を束ねた日本髪に、白粉をつけ、紅をひくといったメイクが一般的であったが、洋装化が広まるとともに、それに合うメイクやヘアスタイルが誕生したとある。

さらに山本によれば、最初の洋装化メイクは大正時代から始まり、その頃すでに、現在と同様に目が大きいことがモダン美人の条件となっていたとされる。江戸時代のいわば化粧マニュアルである『都風俗化粧伝』では、大きすぎる目は欠点とされ、小さく見せる化粧法が載っていたということであり、大正時代は顔に対する美意識に変化が生じた時代であった。

大正～昭和初期に出現したモダンガール（モガ）はそれまで主流だった長い黒髪を、ショー

トボブにして、日本の都市部を中心に「おかっぱ」を流行らせた。戦後、50年代に入ると、映画女優オードリー・ヘップバーンを真似したヘップバーン・カットが大流行となり、60年代では、パーマをあてたショートカットやショートボブが主流となった。1967年に来日したイギリスの人気モデル・ツイギーを真似たショースタイルやウルフカットが大流行し、70年代にはセミロングのレイヤーカットをブローで内側から外側に流すサーファーカットが巷に溢れ、80年代には1980年にデビューした松田聖子の髪型を真似た聖子ちゃんカットが一世を風靡し、その後、浅野温子や浅野ゆう子などの女優を模したロングのワンレングスやソバージュヘアに移行していった。90年代には、ヘアカタログやタレントの髪型をお手本とするだけでなく、ヘアスタイルの個性化が生じ、毛先をすいて軽さをだすシャギーヘア、ヘアカラーで全体を明るくする茶髪、部分的に明るく染めたメッシュなどが人気となった。現在では90年代後半に流行したヘアカラーブームも落ち着き、黒髪や自然な茶色が主流となっている。

以上のように、戦後から現在までのヘアスタイルを調べていくと、メイクもファッションも時代とともに変化していったことが分かる。

グラント・マクラッケン著『ヘア・カルチャー もうひとつの女性文化論』は、文化人類学者の視点でアメリカの女性のヘアについて扱ったものであるが、このなかで「髪型はファッションとともに、自己イメージの形成や、その人自身の気持の変化や性格まで変えてしまうもの」と書かれている。このことから、女性にとってヘアスタイルとファッションは、切り離せない関係ということが読み取れる。

このように、欧米でも日本でも女性のヘアスタイルはファッションと同様、自己イメージの形成、他者への表象的な記号としての役割を担い、欠かせないものとなっている。

こうした点をふまえた上で、本論では、ヘアスタイルとファッションの関係性が、時代とと

もにどのような変遷を経てきたのか、1980年～2009年の30年間のストリートファッションの定点観測写真を基に、ストリートファッションとヘアスタイルの関連性や変遷について、実証的な把握を行うことを目的とした。

## II. 主な既存研究

髪やファッションに関する実証研究は、今日まで色々な視点でなされている。既存研究の主なものをあげると、ボーラ文化研究所の村澤・高谷による「おしゃれ白書'97」にみる現代女性の髪色観<sup>1)</sup>や、ボーラ文化研究所の村澤博人・阿保真由美による「アンケートにみる過去10年間の現代女性の髪色観の変化」<sup>2)</sup>等がある。

これらの研究では、日本の女性の1991年～2001年の間の髪色の変化を年代別にまとめている。前者の研究結果では、茶髪に対して世間が寛容になり、日本人は黒い髪で黒い瞳という固定観念＝こだわりが破られつつあり、黒い髪は選択肢の一つで、自分で髪の毛の色を選ぶ時代になりつつあるといった結論を呈示している。後者の研究は、前者の研究のフォローとして発行されたものであり、日本人はますます髪を染めるようになり、色の選択の自由度が増しているとして、染毛率は調査結果の全体では3人に2人、とりわけ24～29歳では4人に3人となっていて、茶髪を許容する人は全体の88%といった結果になったと示されている。

このように染毛率の割合や、髪色に関する研究はいくつかあるが、その多くはアンケート調査による把握であり、なおかつ、髪型とファッションの両者を数量的に把握・検討した研究は極めて少ない。そこで本研究では、街の若者をアトランダムに撮影して収集したストリートファッション写真を用い、ストリートにおける髪型とファッションの変遷や、関連性を調べ、得られた結果を検討することで、ヘアスタイルとファッションの結びつきについて考察を行うものとする。

### Ⅲ. 調査方法

#### 3-1. ストリートファッション写真によるヘアスタイルとファッション分類

各月の晴れた日の土曜日または日曜日、あるいは祝日の13:00～16:00の時間の間、街頭で定点観測を行った。同時に10代後半～20代の若い女性を対象にした写真を撮影し、この写真の被写体ヘアスタイルとファッションを集計した。撮影地点および被写体数は、年代による若干のばらつきがあるが、1980年代は1,400人（渋谷・原宿・銀座・新宿）、1990年代は571人（渋谷・原宿・銀座・代官山）、2000年代は1,058人（渋谷・原宿・銀座・代官山）であり、過去30年間の総計3,029人である。調査項目は以下の表の通りである。

#### 3-2. 集計項目

表1 ヘアスタイルの集計項目

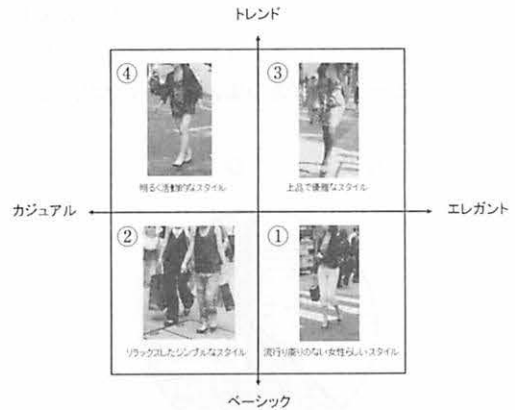
髪 の 長 さ	ロング 肩から肩甲骨にかかる長さ～それ以上	ストレート ウェーブ カール アップ
	ミディアム サイド：耳下から鎖骨ライン位 バック：肩とあごの中間～肩にかかる程度の長さ	ストレート ウェーブ カール アップ
	ショート サイド：耳下位 バック：襟足から2～3cm程度の長さ	ストレート ウェーブ カール アップ
髪 の 色	そのまま、茶髪、金髪、ポイントカラー、その他	

表2 ファッションアイテム

ファッションアイテム	スカート	ミニ、ミディアム、ロング
	パンツ	ショート、クロップド、フルレングス
	ワンピース	ミニ、ミディアム、ロング
	アウター	コート、ジャケット、ブルゾン・パーカー、ニット、Tシャツ・カットソー、タンクトップ・キャミソール、その他

表3 ファッションスタイルの4分類

ファッションスタイル	①エレガント×ベーシック
	②カジュアル×ベーシック
	③エレガント×トレンド
	④カジュアル×トレンド



### Ⅳ. 調査結果および考察

#### 4-1. 30年間トータルの結果

##### 4-1-1. 30年間トータルの髪形の割合

1980年代～2000年代の髪型の変化と、ファッション（主にボトム）、ファッションテイストの変化を、ストリート写真を基に調査した。ストリート写真の対象は、ファッションや流行に関心が高い10代後半～30代前半の女性である。髪型の調査をするにあたり、髪の長さを集計した。30年間トータルの場合の結果は、ロングヘア43.4%、ミディアムヘア35.7%、ショートヘア

■ ロング □ ミディアム ▨ ショート



図1 1980年代～2000年代の髪の長さの割合

ア20.9%となった(図1)。最も好まれているのはロングヘアであり、他方、ショートヘアは2割程度という結果であった。

#### 4-1-2. 30年間トータルのファッションアイテムとテイスト

次にファッションアイテム(ボトム)の変化を示す。表2に示したように、スカート、パンツ、ワンピースと個別の集計を行ったが、ここ

■ スカート □ パンツ

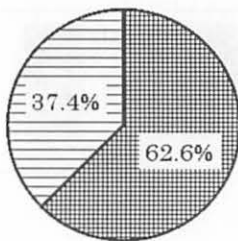


図2 1980年代～2000年代のボトムの割合

■ カジュアル □ エレガント

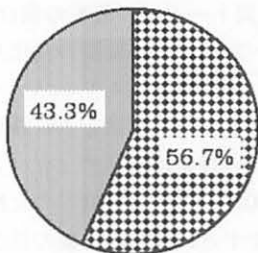


図3 1980年代～2000年代のファッションテイストの割合

では、ワンピースはスカートに統合して、スカートとパンツの割合を出した。これらの結果をみると、スカートが62.6%、パンツが37.4%となった(図2)。過去30年間のトータルでは、スカートが約6割を占めていることが分かる。

さらに、ファッションテイストでは、表3に示すように、ファッションの傾向を4つに分割してその割合を求めたが、ここでは、カジュアルとエレガントの割合を示す(図3)。カジュアルファッションは56.7%、エレガントファッションは43.3%となり、カジュアルファッションが約6割でやや優位であった。以上の結果、1980年～2000年の30年間トータルでは、ロングヘアの髪型にスカート、そしてカジュアルなファッションがやや多数であったことが伺える。

#### 4-2. 1980年代の結果と考察

##### 4-2-1. 1980年代の髪形の割合

1980年代の髪の長さを調べた結果、ロングヘアが40.0%、ミディアムヘアが36.6%、ショートヘアが23.4%となった(図4)。30年間トータルと比べると、わずかではあるが、ショートヘアの割合が高く、ロングが少なかった結果であった。1980年代には、男女雇用機会均等法の施行などを背景として、キャリアウーマンが登場し、厚い肩パッドの入ったスーツを着た女性が出現した時代であり、ショートカットで颯爽としたスタイルが好まれたことと結びつく。また、ファッション雑誌「an-an」の提案するビギヤコム・デ・ギャルソン、ピンクハウスといった

■ ロング □ ミディアム ▨ ショート



図4 1980年代の髪の長さの割合

DCブランドを着こなした若者が現れ、テクノカットやショートボブ等の前衛的なヘアスタイルも好まれた。

他方、セミロングやロングヘアでは、1970年代半ば以降から流行した、女優のファラ・フォースセット由来のセミロングのレイヤーカットをブローで内側から外側に流すサーファークット、歌手の松田聖子を真似た聖子ちゃんカット、ワンレングスのストレートヘアの流行も続いた。こうしたワンレングスヘアの流行の影響で、1980年代後半にはロングヘアの割合が増加した。

#### 4-2-2. 1980年代のファッションアイテムとテイスト

1980年代のファッションアイテムをみると、スカートが70.2%、パンツが29.8%となり、30年間トータル（62.6%）よりも多い結果となった（図5）。ファッションテイストでは、カジュアルファッションが49.1%、エレガントファッションが50.9%とほぼ同数となり、30年間ト

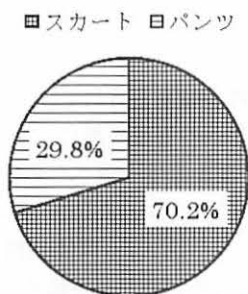


図5 1980年代のボトムsの割合

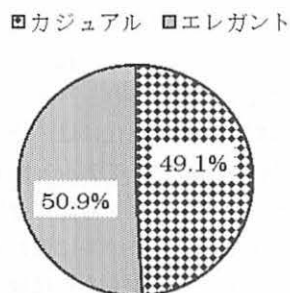


図6 1980年代のファッションテイストの割合

ータルと比べると、エレガントファッションの割合が高い（図6）。

1980年代のファッション傾向は、カンントリー・ロマンティック調のピンクハウスや、黒を中心とした前衛的なコム・デ・ギャルソンのような独特なデザインのファッションが受け入れられていたと同時に、ボディコンシャスなシルエットのスタイル、ニュートラ、ハマトラのトラッドファッションの流行が見られた。これらのスタイルのいずれとともに、ボトムはスカートが主流であり、本調査と重なる結果となった。

#### 4-3. 1990年代の結果と考察

##### 4-3-1. 1990年代の髪形の割合

1980年代の髪の長さを調べた結果、ロングヘアが41.0%、ミディアムヘアが38.3%、ショートヘアが20.8%となった。ロングヘアとミディアムヘアがわずかに上昇し、ショートヘアが減少している（図7）。

かつて、映画女優やタレントを模倣したヘアスタイルが主流だったが、1990年代に入ると変化が生じ、誰もが同じ髪型をよしとするのではなく、個別の似合う髪型が模索されるようになった。そのきっかけとなったのが、1990年代後半に台頭したカリスマ美容師のブームである。一人一人の髪質や顔に合わせた髪型を、巧みな技術を持った美容師が提案したことで、同時期に同じヘアスタイルが流行する傾向に歯止めがかかった。その代わりに、1990年代のヘアの特徴としては、毛先にシャギーを入れたり、髪を染

■ ロング □ ミディアム ▨ ショート

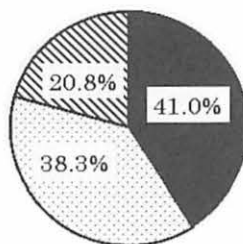


図7 1990年代の髪の長さの割合

めて明るくするなど、軽くみえる髪型が主流となり、比較的毛量の多い日本人の黒髪観は過去のものとなった。このことは、染毛についての調査とも符合しており、1997年の染毛率は76.5%となり、黒髪のままの人の割合(23.5%)を上回ったことから、1990年代後半に髪色を明るくすることが流行していたことが分かる。また、これは「おしゃれ白書'97」にみる現代女性の髪色観(村澤・高谷)での、1997年では、二人に一人が染めているという結果が出たことと一致している。

#### 4-3-2. 1990年代のファッションアイテムとテイスト

1990年代のファッションアイテムを調べた結果、スカートが58.4%、パンツが41.6%となり、1980年代よりもスカートが減って、パンツの割合が増えている(図8)。さらにファッションテイストをみると、カジュアルが60.2%、エレ

■スカート □パンツ

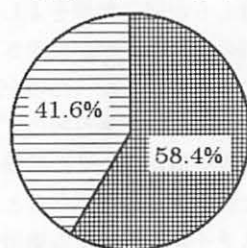


図8 1990年代のボトムスの割合

■カジュアル □エレガント

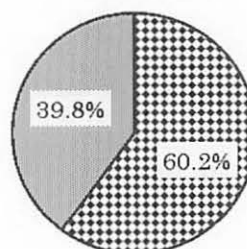


図9 1990年代のファッションテイストの割合

ガントが39.8%となり、1980年代と比較するとカジュアルファッションの割合が増えている(図9)。

1990年代には、1989年の渋谷カジ(渋谷カジュアルの略)以降、カジュアルファッションの隆盛がみられ、紺ブレの流行、トラッドファッションが注目を集める。1980年代に台頭したDCブランドも衰退し、キレカジ(きれいなカジュアル)や、フレカジ(フレンチ・カジュアル)、イタカジ(イタリアン・カジュアル)といった様々なカジュアルファッションが生まれた。1980年代には、スカートスタイルが主流だったが、1990年代にはデニムをはじめとして、パンツスタイルが広まった。さらに1995年頃から、渋谷を中心に女子高校生たちが台頭し、1996年のファッション・ビル「渋谷109」のリニューアルとともに、健康的でセクシーなギャルファッションが登場、ファッションの低年齢化が進んだ。他方、原宿では、明治通り、キャットストリート、裏原宿等、原宿の複数のエリアでストリート発のファッションが展開され、カジュアル化に拍車がかかった。

#### 4-4. 2000年代の結果と考察

##### 4-4-1. 2000年代の髪形の割合

2000年代の髪の長さを調べた結果、ロングが48.8%、ミディアムが33.2%、ショートが18.1%となった(図10)。調査期間を通じて、ロングヘアの割合が最も高い結果となり、1980年代(40.0%)、1990年代(41.0%)と約4割だったものが、2000年代に約半数がロングヘアとなり、高い支持が伺える。

1990年代には、カジュアル化の流れと、個々に合わせた髪型が求められ、ヘアスタイルの多様化が進んだが、2000年代には、その反動からか、雑誌「CanCam」のモデル・蛭原友里や押切もえなど、ファッション雑誌に登場するロングヘアのモデルや読者モデルに憧れを抱く傾向がみられ、ヘアスタイルもそれに倣ったものが登場した。さらに、1990年代に流行した明るい

ストリートファッションにおけるヘアスタイルの変遷

■ロング □ミディアム ▨ショート



図10 2000年代の髪の長さの割合

茶髪やポイントを染めたメッシュ、ブリーチなどの脱色などは下火となり、ナチュラルブラウンやダークブラウンなどの落ち着いたカラーリングが好まれるようになった。

#### 4-4-2. 2000年代のファッションアイテムとテイスト

2000年代のファッションアイテムをみると、スカートが54.7%、パンツが45.3%となり、さらにパンツの割合が増加している（図11）。パンツの割合を経年でみると、1980年代は29.8%、1990年代で41.6%であり上昇を続けている。ストリートファッションの定点調査からも、2000年代には、ジーンズやショートパンツの高い支持が伺えたことから、結果と一致している。さらに、2000年代前半には、原宿の若者を中心として、スカートやワンピースにデニムやショートパンツを合わせるレイヤードスタイルが広まったのも、パンツの着用率の増加に繋がったと考えられる。

■スカート □パンツ

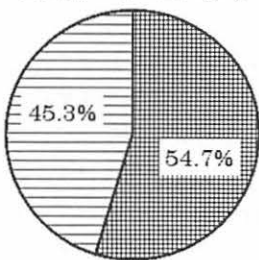


図11 2000年代のボトムの割合

■カジュアル □エレガント

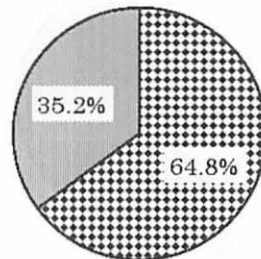


図12 2000年代のファッションテイストの割合

2000年代のファッションテイストを調べると、カジュアルが64.8%でエレガントの35.2%を凌ぎ、1990年代よりもさらにカジュアルの割合が増加している（図12）。2000年代には、憧れ対象である女優やモデルの間でも、セレブカジュアルと称されたカジュアルスタイルが支持されたり、レイヤードファッションや、ファストファッションブランドの支持等により、ファッションのカジュアル化がさらに進行したといえる。

#### 4-5. シーズン別の結果と考察

##### 4-5-1. シーズン別の髪型の割合

ここでは、30年間トータルのデータを、3月～8月を春夏（SS）、9月～翌年2月を秋冬（AW）とし、シーズン別による髪型とファッションアイテム、ファッションテイストの割合を求めた（図13、14）。

髪の長さでは、春夏シーズンではロングヘア41.7%、ミディアムヘア36.9%、ショートヘア

■ロング □ミディアム ▨ショート

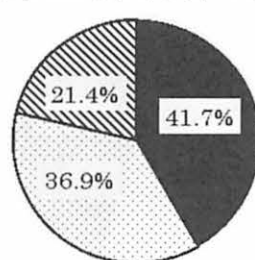


図13 髪の長さの割合（SS）

■スカート □パンツ

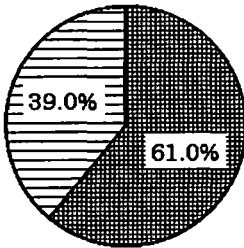


図14 ボトムの割合 (SS)

■スカート □パンツ

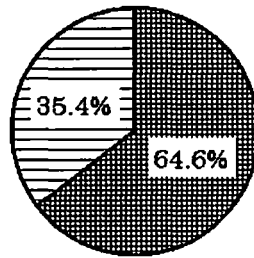


図16 ボトムの割合 (AW)

21.4%であるのに対し、秋冬シーズンではロングヘア45.0%、ミディアムヘア34.5%、ショートヘア20.5%という結果になった。春夏シーズンには、ミディアムヘアとショートヘアの割合が多く、秋冬シーズンにはロングヘアの割合が高くなった。日常的な感覚からも、気温や湿度の高い春夏にはミディアムヘアやショートヘアが好まれ、気温の低くなる秋冬にはロングヘアが増加することが類推されるが、こうしたことがデータでも裏づけられた。

#### 4-5-2. シーズン別のアイテムの割合

春夏シーズンでは、スカートが61.0%、パンツ39.0%であり、秋冬シーズンではスカートが64.6%、パンツが35.4%という結果であった(図15, 16)。春夏にはパンツの割合が高く、秋冬にはスカートの割合が高い。秋冬には防寒のためにパンツが増加すると思われるが、ストリートファッションのコーディネートをもても、秋冬にはスカートとブーツの組み合わせが多く、

秋冬のスカート優位に繋がっていると推測される。

以上、髪型とファッションアイテムについて、季節差を調べた結果、春夏シーズンには短かめの髪型とパンツが増加し、秋冬シーズンにはロングヘアとスカートが多くなるなど、季節に応じた変化がみられることが分かった。

#### V. ま と め

東京都内の主要な繁華街である、原宿、渋谷、銀座、代官山、新宿において、ストリートファッションにおける髪型とファッションアイテム、ファッションテイストの関連性について調査した。調査期間は、1980年～2009年の30年間であり、以上の結果から次のことが明らかとなった。

第一に髪の長さについて調べた結果、1980年代、1990年代、2000年代の各年代でロングヘアが4割以上占めた。ミディアムヘアは3割～4割の間で、ショートヘアは2割弱という結果だった。顕著だったのはロングヘアの割合であり、2000年代に入るとロングヘアの支持が上がった点である。

第二にファッションアイテムとファッションテイストの集計結果より以下のことが分かった。スカートとパンツの比率を求めると、1980年代ではスカート：パンツが7：3、1990年代には6：4となり、2000年代には5.5：4.5となり、パンツの割合が次第に高まっていることがわかった。また、ファッションテイストの結果からも、カジュアル：エレガントの割合が、1980年

■ロング □ミディアム ▨ショート

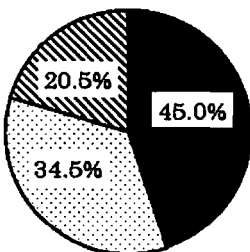


図15 髪の長さの割合 (AW)



代には5:5、1990年代には6:4、2000年代には、6.5:3.5と、漸増していることが明らかとなった。

第三に髪型とファッションアイテムの季節差を調べたところ、春夏シーズンではロングヘア41.7%、ミディアムヘア36.9%、ショートヘア21.4%であったのに対して、秋冬ではロングヘア45.0%、ミディアムヘア34.5%、ショートヘア20.5%という結果になり、秋冬のロングヘア支持が伺える。ファッションアイテムでは、春夏がスカート61.0%、パンツ39.0%に対し、秋冬がスカート64.6%、パンツ35.4%となり、春夏ではパンツが多く、秋冬ではスカートが多いという結果であった。その差はわずかではあるが、髪型もファッションも季節に合わせた選択がなされていることがわかった。

今回の調査対象としたのは、10代後半～20代前半の若い女性であり、こうした若年女性のロングヘア志向を裏付ける結果となった。前出の『ヘアカルチャー』で、著者のマクラッケンは、女性は年をとると、髪が短くなるという法則を示し、大学まではロングヘアでその後はショートヘアとなると書かれている。また、髪の毛を短くすることは年をとった女に起こるべき変化とあり、年齢とともに顔の輪郭が変わるので、ロングヘアが必然的に似合わなくなるとし、ショートにせざるをえないと論じている。他方、髪のダメージなどは時に年齢の問題だけでなく、老化＝ショートヘアというのは間違った見方とも示している。いずれにしても、ショートヘアは成熟のしるしであり、女性が虚栄心と若さへの関心を放棄したことをあらわす一つの方法であると述べている。

日本では平安時代から安土桃山時代において、女性の髪は黒くて長いほど美人とされており、日本のヘアスタイル史にショートヘアが入ってきたのは1920年代以降、80年間の歴史しかない。その名残であろうか、ロングヘアは現在でもしばしば女性らしさの象徴とされることがある。

ただし、他方では、パンツスタイルの割合が

高まり、カジュアルなテイストが求められており、ファッションそのものがユニセックス化しているなか、ロングヘアを女性らしさのよすがとしているのかも知れない。

かつて、1980年代には、キャリアのある女性は肩パッドが入ったパワースーツを身にまとい、男性と肩を並べて、あるいは男性を超える仕事を行うことで社会進出に乗り出した。そして1990年代のカジュアル化の流れを経験し、2000年代に入っては、ファッションがさらにカジュアル化するなかで、ロングヘアの割合が増加している。これはロングヘアの記号性が従来の画一的なものから変化し、ヘアアレンジやカラー等でバリエーションが広がり、ロングヘアのイメージも多様化していることの反映ととらえることができる。

## 参考文献

- 1) 城 一夫・渡辺直樹「日本のファッション」, 青現社 (2007年)
- 2) 渡辺明日香「ストリートファッションの時代」, 明現社 (2005年)
- 3) アクロス編集室編「STREET FASHION 1945-1995」, PARCO (1995年)
- 4) 山本桂子「お化粧しないは不良のはじまり」, 講談社 (2006年)
- 5) グラント・マクラッケン著・成実弘至訳「ヘア・カルチャー もう一つの女性文化論」, PARCO 出版 (1998年)
- 6) 「現代風俗 '77」, 現代風俗研究会 (1977年)
- 7) 村澤・高谷「おしゃれ白書 '97」にみる現代女性の髪色観, ポーラ文化研究所 (1997年)
- 8) 村澤博人・阿保真由美「アンケートにみる過去10年間の現代女性の髪色観の変化」, ポーラ文化研究所 (2001年)
- 9) 岡林・高谷「最近の女性のヘアスタイル: 変わる前髪, 高校生も2割が染毛 おしゃれ白書 '91とオシャレ白書 '94を比較して」, ポーラ文化研究所 (1995年)
- 10) ポーラ文化研究所, 「化粧文化 38」(1998

- 年)
- 11) ポーラ文化研究所, 「化粧文化 40」(2000年)
- 12) ポーラ文化研究所, 「化粧文化 41」(2001年)
- 13) やさしい化粧文化史—入門編—「自由なヘアスタイルのはじまり～大正時代—髪型編Ⅰ～」, ポーラ文化研究所, <http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunken/much/12.html> (2010.9.15検索)
- 14) やさしい化粧文化史—入門編—「自由なヘアスタイルのはじまり～大正時代—髪型編Ⅱ～」, ポーラ文化研究所, <http://www.po-holdings.co.jp/csr/culture/bunken/much/11.html> (2010.9.15検索)
- 15) ファッション: 真知子巻き, アイビー, hanako 族…懐かしいのはどれ?, 毎日 jp, [http://www.mainichi.jp/life/fashion/graph/fashion-history/index.html?link\\_id=RLH03](http://www.mainichi.jp/life/fashion/graph/fashion-history/index.html?link_id=RLH03) (2010.5.11検索)